

ウッドデッキ

屋外木部



木部保護着色塗料*
を使った塗り替え



*塗料の膜をつくるのではなく、木にしみ込み木目を活かす仕上がりになります

紫外線・色あせに強く
木部の保護と着色に

ツヤを出したい
場合には..

汚れがくれない場合
には塗りつぶしのタイプを

ウッドエパープロテクト



アトム木の保護コート



フリーコート



スケジュールを決めましょう

塗装面積約14㎡のウッドデッキ場合

工程	使用材料	塗布量(ℓ/㎡)	塗り重ね可能時間(夏期)	理想の人数と時間
1 日目	洗浄	—	—	1人 60分
	サンディング	サンドペーパー	#180~#240(削る) #240~#320(整える)	2人 60分
2 日目	マスキング	マスキングテープ	—	1人 30分
	上塗り1回	ウッドエパープロテクト	0.14	2時間以上 2人 60分
	上塗り2回	ウッドエパープロテクト	0.14	2人 60分

作業人数の目安 **2人**

作業人数の目安とは
その作業の難易度、作業性に
相当する理想的な人数の目安
です。例えば2人で行う作業を
3人で行った場合、より効率的
に進められるといえます。

■<ウッドエパープロテクト>の標準塗り面積 (2回塗りの場合)

容量	㎡	タタミ(枚)
0.7L	4~6	約3
1.6L	9~13	約7
3L	19~23	約13

■<木の保護コート>の標準塗り面積 (2回塗りの場合)

容量	㎡	タタミ(枚)
0.7L	約7	約4
1.6L	約16	約9

■<フリーコート>の標準塗り面積 (1回塗りの場合)

容量	㎡	タタミ(枚)
200ml	約2	約1.3
0.7L	5~7	約4
1.6L	10~15	約8
3L	19~28	約14
7L	50~70	約40
14L	100~140	約80

<塗料と養生用品の必要量>

ウッドデッキ<表面1.9m×2mと高さ0.8mラティス3面>の場合

- ウッドエパープロテクト 1.6L:1缶+0.7L:1缶
- マスキングテープ 18m巻:1巻

塗装面積
約14㎡



*木部保護着色塗料は、木の種類や状態により吸い込み具合が異なります。吸い込みが激しい場合がありますので塗装中、足りなくならないように少し余分に用意しておいたほうがよいでしょう。



汚れてもよい服装で
作業をしましょう

*手袋の着用も
忘れずに..



塗装は気温の低い日を選び、
好天の日に行ってください。

雨の日(雨が降りそうな時)や気温5℃以下、
湿度80%以上の時の塗装は避けてください。

使用する道具

☑ 買い忘れがないかチェックを! 塗装用具は作業する人数分用意しましょう。作業効率もあがります

塗装用具

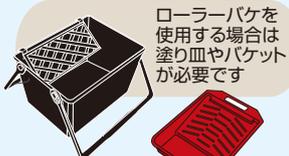
木部着色剤用か
万能用をお選び
ください



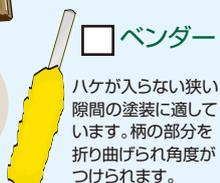
●木部着色剤用ハケは
毛が太く弾力性があり、
木部保護着色塗料の
塗装に最適です。

☐ ハケ(本)

☐ ベンダー



ローラーバケ
を使用する場合は
塗り皿やバケッ
が必要



ハケが入らない狭い
隙間の塗装に適して
います。柄の部分
を折り曲げられ角度が
つけられます。

☐ ローラーバケ
塗り皿(個)

☐ かくはん棒



養生

塗料のはみ出しを防ぐ
ために使います。



☐ マスキングテープ
()巻

マスキングテープとポリ
シートが一体となっており
広い範囲を保護できます



[新聞紙]

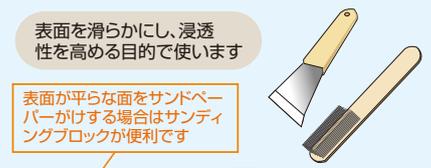
☐ マスキング
()巻



☐ ポリシート
(枚)

清掃・サンディング

表面を滑らかにし、浸透
性を高める目的で使います



表面が平らな面をサンドペ
ーパーがけける場合はサン
ディングブロックが便利です



☐ サンドペーパー
(枚)

☐ 皮スキ
☐ ワイヤブラシ



☐ 雑巾・ウエス



☐ 手袋
(双)

1 下地処理

●洗浄



泥や苔などの汚れがある場合は、水洗いをして出来るだけ取り除きます。

水洗いをしたあとは、充分乾燥させてください



! 木が湿っていると塗装できません。充分に乾燥させてください

木が湿っていると木部保護着色塗料がしみ込みにくく、はがれの原因にもなります。塗る面は充分に乾燥させてください。

●サンドペーパーをかける



重要 Point

木部保護着色塗料の浸透性を高める

ケバ立ちを取り除き表面を滑らかにする

全体を#240~320程度のサンドペーパーを使って研磨していきましょう。サンドペーパーがけは、力を入れすぎるとキズがつきやすく、均等な仕上がりになりにくいので、「削る」というよりは「整える」という感覚でおこなってください。表面を、木目に沿って研磨する事が基本です。また、平らな面の場合にはサンディングブロックを使いましょう。小さなストロークで一定の力をかけ、全体をまんべんなく整えていきましょう。表面が激しく劣化している場合は、予め目の粗い#180程度のサンドペーパーで削りとりましょう。

サンドペーパーを選びましょう。

サンドペーパーには番手があり、数字が大きくなれば目は細かく平滑な仕上がりとになり、数字が小さくなれば目は粗く削る力が強くなります。下地の状態や望む仕上がりに合わせてサンドペーパーを選んで下さい。

白色の空研ぎ用サンドペーパーを使うと目詰まりが起きにくくなります。

平らな面のサンドペーパーがけには、図のようにサンディングブロックを使いましょう。余った木片や蒲鉾の板などで代用できます。



ここが ●サンドペーパーの番手と仕様ポイント...



<削りカス(粉)を拭き取る>

サンドペーパーがけして出た粉を雑巾やウエスで充分に拭き取りましょう。粉が取りきれないとザラツキのある仕上がりとになってしまいます。



おすすめ

広い面積の時はちょっと面倒...そんな時は

[オービタルサンダー] (電動工具) をおすすめします

広い面積にサンドペーパーがけを行う場合に便利です。ご使用の際は破れにくい布製のサンドペーパーが適しています。



*表面がボロボロの場合は...



表面の劣化が激しい場合(手で触ってボロボロ落ちる状態)は、サンドペーパーをかける前に予め皮スキやワイヤーブラシで取り除いてください。



●サンドペーパーがけは、粉状の削りカスが大量に飛び散りますのでマスク、保護眼鏡を着用して目や鼻、喉を保護してください。帽子も必要に応じて着用してください。

2 はみ出しや汚れを防ぐ為の処理 マスキング(養生)



塗りたくない部分や塗料が付着すると困る部分には、必ずマスキングテープを貼ってください。ただし、木部保護着色塗料は木部にしみ込ませるタイプなので、マスキングテープの端からにじんでしまうため、きれいに仕上がらないことがあります。床面には、ポリシートやブルーシート等を敷き保護すると塗装時の汚れが防げます。

3 塗料をかき混ぜる

●塗料は中身をよくかき混ぜてからご使用ください

フタを開ける前に容器をよく振り、フタに手をそえてマイナスドライバー等で開け、ヘラなどで底にドロツとした固まりがなくなるまで充分にかき混ぜてください。汚れることがありますので新聞紙やポリシートの上で行ってください。



*フタを開ける際に塗料が飛び散ることがあります。ポリ布をかぶせてからフタを開けるなどご注意ください。

4 塗る

塗装のポイント

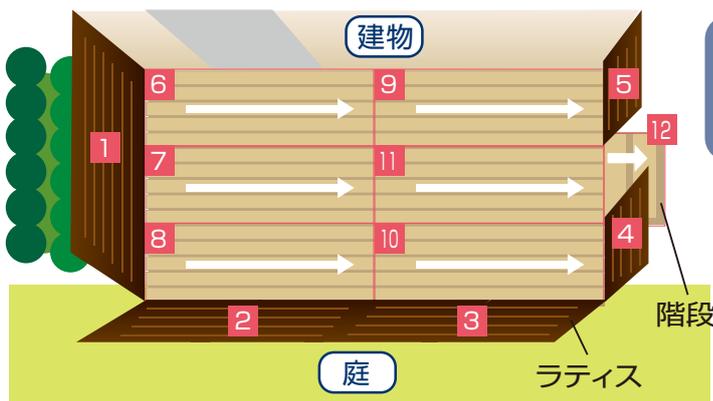
- ・木目に沿って木にしみ込ませるように塗る
- ・厚塗りを避け、タレないように気をつける
- ・広い面はコテバケが便利



●まずは塗る順番を決めましょう

1~12の順番で塗っていきましょう。

まずはラティス1~5から塗っていきます。ラティスの両面を塗り終えたら次に床面を塗りますが、塗った後の逃げ道の確保のため奥(建物側)から手前(階段)に向かって塗っていきましょう。1回で塗る範囲は幅1.5~2m、奥行き80cm位を目安に、部分的に仕上げ上げていく方法をおすすめします。



ウッドエアープロテクトはもともと粘度が低いのでうすめる必要はありません。



格子の側面

1. ラティスの塗装

格子の側面から先に塗っていきます。原則として細かい部分から塗っていきます。



次に奥の格子の表面を塗っていき、最後に手前の格子の表面を塗っていきます。片側の格子全てが塗り終わったらラティスの裏面も同様に塗っていきます。



3. 板の隙間の塗装

狭い隙間は、ハケを寝かせて毛先を差し込んで塗ってください。隙間がせまく入らない場合は毛先の厚みがうすい小さなハケで塗ってください。ウッドデッキの下にタレないようにハケに塗料を含ませすぎないでください。



4. 1回目塗装後の乾燥確認

2回目の塗装は1回目の塗装後、2時間(冬期は4日)以上間隔をあけて充分乾燥していることを確かめてから塗ってください。

*気象条件や下地の状況によって乾燥が遅れる場合があります。



2. 板の表面の塗装

木目に沿って木に吸い込ませるように塗っていきましょう。表面にしみ込まなかった塗料が残らないようにハケで塗り広げていきましょう。



5. 2回目の塗装

1回目の塗装と同じ手順で塗っていきましょう。1回目の塗装をしたことでしみ込む量が少なくなりますので、塗料のつけすぎに注意しましょう。

●●●●●  完全乾燥まで1日以上かかります。完全に乾くまでの間はデッキの上を歩かないでください。

ここがポイント...

<広い部分はコテバケを使うと便利>



コテバケは広い部分を効率的に塗ることができます。また、塗りムラになりにくいのでおすすめです。ただし塗る面に凹凸がある場合は適しません。

<木口の塗装>



他の面と比べ雨が木の内部にしみ込みやすく、痛みの原因になってしまうので、たっぷりしみ込ませるように塗って保護してください。

●木の傷みが激しい場合には塗りつぶしのペイントタイプをおすすめします



屋外にさらされている木は年月が経つと色があせ、さらに劣化が進行すると木そのものが黒ずみ、腐食していきます。劣化が進行しすぎると、ステインタイプでは黒ずんで傷んだ表面を再生できない場合があります。そのような場合は、木目を隠す仕上りのペイントで塗り替えをおすすめいたします。

<フリーコート>は、落ち着いた3つやで、木目が隠れるペイントタイプです。ガーデン資材、板べい、濡れ縁など屋外木部全般におすすめいたします。

水性

フリーコート

容量:200ml・0.7L・1.6L・3L・7L・14L
塗り回数:1回



木目を隠す仕上がり



●木に浸透させるタイプの木部保護着色塗料は、塗料やニス、ワックスが塗られている面には塗れません。

木部保護着色塗料で塗り替えたい場合は、既に塗られているものをサンドペーパーで完全に除去してください。もともと塗ってあるものが木部保護着色塗料で、水が吸い込む状態であれば軽くサンドペーパーをかけるだけで、取り除かずに塗装できます。



最初は粗めの#120~180程度のサンドペーパーで荒削りして、最後に#320程度のサンドペーパーで表面を滑らかにします。

●つやを出したい場合は、アトム木の保護コートをおすすめします

ウッドエバープロテクトはニスの上塗りの必要性はありませんが、光沢のある仕上がりをお望みの場合は、<アトム木の保護コート>の上塗りをおすすめします。十分に乾かしてから木の保護コートを塗ってください。

<アトム木の保護コート>は、厚膜タイプの透明ニスで日光や雨に強く、木の耐久性を高めます。また、植物油を原料としており、安全性に優れています。

油性

アトム木の保護コート

容量:0.7L・1.6L
塗り回数:2回



Point

いきなり厚く塗るのではなく、1回目の塗装は、うすめに塗りましょう。1回目の塗装後24時間の間隔をあげ2回目を塗って仕上げましょう。

5 あとしまつ

●マスキングテープをはがす

マスキングテープは、乾く前にはがしてください。床面に敷いた新聞紙等は汚れている面を内側にして丸めて捨てると周りを汚さずに処理できます。



*塗装用具を洗浄する際は必ずゴム手袋をしてください

●用具の手入れ

ハケに残った塗料を古新聞やボロ布で落とし、乾く前に石けん水でよく洗った後十分に水ですすいで、陰干ししてください。ハケの手入れは乾燥する前に行ってください。乾燥するとハケの毛が固まって使用できなくなってしまいます。

完成(イメージ)



ウッドデッキの面積の目安

ウッドデッキ<床面1.9m×2mと高さ0.8mラティス3枚>の場合

ウッドデッキは正確に計ることが最も理想的ですが、このように概算で算出することもできます。

約14㎡

床面積=3.8㎡
ラティス面積(3枚×両面)=9.6㎡



ラティスは、格子状なので幅×高さで計る面積よりも表面積は少ないのですが、格子の側面や支柱内面なども塗装するので塗料の量は余裕をみて準備してください。

格子の側面

支柱の内側



アトムサポート株式会社

本社 〒174-0041 東京都板橋区舟渡3-9-6
URL <http://www.atom-paint.co.jp>

お客様相談室

TEL 03-3969-7866

ホームページ
はこちらから